

様式第3号

会 議 録

会議名 (付 属 機 関 等 名)		令和2年度 第2回 川西市産業ビジョン推進委員会 地域経済対策検討部会		
事務局 (担 当 課)		市民環境部 産業振興課		
開催日時		令和2年11月19日(木)午後1時～3時		
開催場所		オンライン開催(川西市役所 2階 201会議室)		
出席者	委員	佐々木部会長、時任部会員、山本部会員、木原部会員、辻田部会員、須磨部会員、野原部会員、藤森部会員		
	事務局	市民環境部岡本部長、阪上副部長、 産業振興課飯田課長、大島課長補佐、中野主任		
傍聴の可否予定		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	2人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		<p>1 開会</p> <p>2 議事 (1) 産業ビジョンとポストコロナ時代の経済対策の検討</p> <p>(2) その他</p> <p>3 閉会</p>		
会議結果		別紙 審議経過のとおり		

事務局	<p>1 開会</p> <p>ただ今より、令和2年度第2回川西市産業ビジョン推進委員会 地域経済対策検討部会をオンライン形式で開催いたします。前回に引き続き、産業振興課飯田が進行して参ります。よろしくお願いいたします。今回もオンライン形式での会議開催であり、皆様のご協力をいただきますようお願いいたします。</p> <p>なお、前回の会議ではチャット機能を使用しておりませんでした。今回は使用できるように設定しております。会議の進行上、ご発言いただいた事柄についての補足として情報提供いただくなどにご活用くださいますようお願いいたします。</p> <p>< オンライン会議の有効性の確認 ></p> <p>では、開催に先立って、オンライン会議システムでの参加及び通信の確認を行います。</p> <p>本日は、全委員がオンライン会議システムによる出席となります。会議開始前に事務局が「映像及び音声により委員本人であること」、「会長及び委員相互間での映像及び音声の即時の相送受信が適正に行われていること」の2点について、確認を取っております。</p> <p>次に本会は、部会長と部会員7名のご出席をいただいております。当委員会の規則第7条第2項の規定による、定数を満たしておりますことをご報告いたします。</p> <p>また、参画と協働のまちづくり推進条例に基づき、2点お伝えいたします。</p> <p>本日の会議は、こちらの市役所会議室にプロジェクターを設置し、会議内容が傍聴できる体制とし、公開のもと行って参ります。</p> <p>なお、会議録の作成のため、当会議を録画・録音いたします。会議録の作成後には速やかに削除いたしますのでご了承願います。</p> <p>< 資料確認 ></p> <p>それでは、事前に郵送させていただいた資料のご確認をお願いします。</p> <p>資料は3部あります。</p> <p>次第</p> <p>資料1</p> <p>資料2</p> <p>参考資料1・2につきましては、予備的情報の資料であるため、含めておりません。</p> <p>それでは、議題の進行に移らせていただきたいと思います。当ビジョン推進委員会</p>
-----	---

	<p>規則第7条第1項の規定により、部会長に議長を務めていただきます。では佐々木部会長、よろしくお願いいたします。</p> <p><u>2 議事</u></p> <p>佐々木です。皆様どうぞよろしくお願いいたします。それでは次第に沿って進行をさせていただきます。</p> <p>会議中、委員の皆さまからのご発言の際には、挙手いただき、こちらから指名させていただきますので、マイクをオンにしてご発言をお願いいたします。</p> <p>会議は3時までを予定していますので、円滑な進行にご協力くださいますようお願いいたします。</p> <p><u>議事（1）産業ビジョンとポストコロナにおける経済対策の方向性の検討</u></p> <p>議題（1）産業ビジョンとポストコロナにおける経済対策の方向性の検討についてですが、事務局から資料1と2が提出されています。</p> <p>この資料1は、前回会議でお示した資料を更新したもので、前回会議でいただいた皆様のご提案を事務局の方で整理したものです。左側の産業ビジョンの基本方針から事業展開の方向性について、中央には、コロナ前後の変化について、右側にポストコロナ時代に対応する事業の例示が示されています。</p> <p>この議題では、部会員の皆様から今後川西市がとるべき方向性について、皆様のご見識から自由にご意見をいただきたく考えています。本日も多くのご意見をどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは事務局から資料に基づいて説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p style="text-align: center;"><資料1・2に基づいて説明></p>
部会長	<p>委員の皆様からの重要なご発言ご意見について、深掘りしていきたいと思います。こういった方向からでも結構ですので、例えば、コロナ禍による変化のところでもう少し追加すべきことや、強調すべきこともあろうかと思えます。</p> <p>そしてポストコロナ時代の経済対策のところでも、前回のご議論を踏まえた上で、補足・強化すべきなど、様々な角度からご意見があると思います。また事務局に対してまとめ方等々の質問もあろうかと思えます。どの角度からでも結構ですので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
部会員	<p>質問も兼ねて提案ですが、能勢や豊能、川西なら黒川など、近隣の山に結構人が来</p>

事務局	<p>ており、道の駅には遠方からも来ていると聞いています。黒川では来年4月から土地利用の規制緩和があるとも聞いており、地域活動も活性化されているようです。市として黒川地域の活用方法などの展望はありますか。</p> <p>まず、コロナ禍の川西北部の状況ですが、過ごし方の変化という点では他都市と同様の状況でキャンパーが増えている等、例年より多くの利用者がキャンプ場や能勢電鉄のバーベキュー施設を利用しています。</p>
部会員	<p>2点目の黒川の里山地域の規制緩和については、現在の黒川は市街化調整区域になっており、施設の建設や整備が難しい状況です。現在、約50世帯ですが、ここを住み繋ぐためには一定の規制緩和が必要と行政では考えており、担当部署をはじめ全庁で協議し、今回の議会での承認を経て、規制緩和を進めようとしているところです。これまでも勉強会を開催しており、その中から活動の担い手は見えつつあります。この規制緩和によって新しい担い手が黒川地域や里山に入って活動しやすくすることが狙いです。新年度からスタートできるように準備を進めています。</p>
事務局	<p>担い手が見えつつあるということですが、具体的にどのような方が取り組もうとされているのか。また、規制緩和以外に具体的な支援策や計画があれば教えていただきたいです。</p>
部会員	<p>市街化調整区域では生業はできないのですが、事業計画がある方には実現しやすいような土地利用を考えています。ただし、事業計画がない場合は俎上にあげていません。Aさんが収穫する産物があり、それを加工販売する計画があれば、その施設をつくることのできるよう土地利用に関する摺合せを行っています。</p> <p>行政の支援策としては、新規出店向けの補助を検討しており、現在、実施に向けた調整を行っている段階です。</p>
部会長	<p>具体的な提案はないが、市内に女性起業家の知り合いが多く、黒川はかなり注目されていて、その辺りの活用を考えられています。今のことをお聞きできたため、現在第3波と言われているため、ウィズコロナが続くと思いますが、山間部を持っている川西ならではの良さを発揮できるのではないかと思います。</p>
部会員	<p>何か関連したご意見がありましたら、追加でお願いしたいと思います。</p> <p>前回、能勢電鉄の乗降人員についてお伝えしましたが、4～5月は50%程度、6月以降は2割減、10月になり前年比13%減となり、徐々に戻りつつありますが、第3波でどうなるかはわかりません。</p> <p>妙見の森は、8月～10月で対前年比同等の数字まで戻っています。ただ、昨年度はインバウンドのお客様が多かったのですが、現在はほぼゼロであり、国内の人が増えている状況です。黒川の話も出ましたが、黒川の交通ネットワークも視野に入れてい</p>

<p>部会長 部会員</p>	<p>ただきたい。</p> <p>黒川を中心に2つの角度からご意見をいただきました。その他はいかがでしょうか。</p> <p>キの欄について、広域によるマイクロツーリズムの実践と書かれていますが、「いいな里山ネット」は行政と経済団体と能勢電鉄が加わった1市3町で取り組む珍しい例で、府県を跨いだ集まりです。実際にマイクロツーリズムと言われても、川西だけで人を集めることは難しく、数年前から取り組んでおり、さらに昨年度から若手ワーキングチームを立ち上げて検討をしています。マイクロツーリズムの核となるのは黒川の妙見山で、地形的にも川西・能勢・豊能が核であり、現在幅広く動いています。</p> <p>「いいな里山ネット」の枠組みを使った府県を跨いだ活動は、補助金を受けるという面では難しいところもありますが、珍しい枠組みの良さを活かしたい。インバウンドは難しくても、近隣から人を連れてくることを真剣に考える場をつくるため、12月にセミナーを行い、関心ある事業者を集めて広域マイクロツーリズムの実践に取り組んでいきたいと思っています。</p>
<p>部会長 部会員</p>	<p>非常に貴重で実践的なご意見を賜りました。他にございますか。</p> <p>情報提供になりますが、当社施設でもグランピングを実施していきたい。日本でグランピングを広めたと言われるグループの代表の方から、グランピングがどんなものかを勉強させていただく機会がありました。広域から呼ぶための立地や交通の弁も大事だが、最近はグランピングよりカーポートが流行っているとのこと。キャンプは歩いて、または自分の車で行くイメージがありますが、キャンピングカーを借りてキャンプ場へ行く方も多いそうです。カーポートを道の駅と同じようにインターチェンジ付近につくることで、カーポートまでは自家用車、そこからはキャンピングカーを借りて楽しむニーズがあるという話でした。猪名川町でも道の駅を更新される話があり、川西市の北部エリアにカーポートセンターがあると良いのではないのでしょうか。</p>
<p>部会長</p>	<p>最新動向について、貴重なお話をありがとうございます。</p> <p>Hの欄については、やはり地域の方々の多様な関わり方が重要になりそうです。資料1には再掲として様々なカテゴリーにまたがる項目がありますが、キの欄を中心に、他分野にも目線を広げていくような位置付けで考えていただければと思います。特に「いいな里山ネット」は非常に重要であることがお話の中でも確認できました。市の強力な要素として、コロナ禍でも十分活かせると思われるため、しっかり位置づけていただきたいと思います。</p> <p>また関連したご意見がありました、後からでも結構ですので振り返ってお出しいただければと思います。それでは他のカテゴリーからはいかがでしょうか。</p>
<p>部会員</p>	<p><コワーキングスペースの事例について紹介></p>

	<p>アの欄に限らず、コワーキングスペースが資料のあちこちにあります。背景を含めてわかりやすい記事があったため共有します。</p> <p>大前提として、コワーキングスペースは残念ながら経済対策としての即効性はないと思っています。場をつくり人が集い、コミュニティが生まれ、何かが起こり人が変化する。この積み重ねで場が盛り上がり、それが波及してまち全体や経済が盛り上がる。コワーキングスペースはその起点になるものであり、すぐに効果が生まれるものではありませんが、上手くやっていけば、人からまちへ順序立てて変化を起こす装置になります。中長期的なことを考えた場合、場を作ることが必要になりますが、世の中の流れに非常に大きな影響を受けると考えています。</p> <p>現在、コロナ禍がこの業界に大きな影響を与えており、リモートワークが一気に進んでいますが、これが残り続けるのかということがひとつの視点です。今はやらざるを得ないところがあり、第3波も来て、当面は気が抜けない状況が続きますが、オフィスが不要になるかどうか。これがリモートワークの話の流れの中にあります。例えば富士通などは、オフィス面積を3年以内に半減するという方針を出しており、大企業にオフィス縮小の動きがありますが、また戻るとい見方もあります。オフィスの縮小とリモートワークが残るかどうかは、都市部ではなく地方部のコワーキングスペースの使用率とリンクします。住む場所と働く場所が近くなると思いますが、自宅でも仕事はできるが子どもがいて集中できない、でも都市部まで出ないで近場のコワーキングスペースを利用するという流れは、確実に出ると思います。ただ、これも確実なチャンスとも言い切れない。コワーキングスペースのニーズは更に高まるのではないかという期待感がありますが、これをどう見るかは気になっています。地方分散の話題もありますが、コロナ禍の後の世の中の動きを読みながら、どのような場所に設置するのかは重要です。ただ、なかなか結論が出せず、現在コワーキングスペースを運営している人も、どうなるかわからない中で運営しているようです。</p>
部会長 部会員	<p>コワーキングスペースについてご意見いただきました。関連していかがでしょうか。</p> <p>質問になりますが、今のお話はとても共感でき勉強になりました。地方に分散する形のコワーキングスペースについて、市の北部になると、対象はミドル層でなく、仕事をリタイアされたシニア層が多いのではないのでしょうか。今後、リモートワークが残るのかを考えた場合に、シニア層をターゲットにしたコワーキングスペースの事例はあるのでしょうか。</p>
部会員	<p>コワーキングスペースはかなり千差万別で、市が検討している起業支援モデルや、ひとりでは持ちづらい機器を揃えてものづくりに特化した場所もあれば、飲食店開業前にそこで試作し、いいものができれば展開するモデルもあります。また地域の人に</p>

	<p>開放してイベントの開催や子ども食堂などを一緒にやって、暮らしに寄せたものも地方にはあります。このようなものであれば働く若い世代だけでなく、もう少し上の層の方々も使う場所になり得るため、どんな運営者がどういうテーマで、どういう場所でやるかによってコワーキングスペースといっても幅ができます。</p> <p>地方寄りでやっても、どういう層が使うのかわかりません。大企業の就業者がオフィスにあまり行かなくなれば使う可能性もあります。また、最近はフリーランスが増えていて、仕事を取るためにコワーキングスペースで仕事をしたりと、どういう層がそこを使うのかは、一概には言い切れないところもあります。</p>
部会員	<p>質問ですが、参考資料1の中でまちなかウォッチャーアンケートがあり、回答された方は混同されているようです。コワーキングスペースが欲しい、シェアオフィスが欲しいという回答があり、仕事をする場所がほしいのか、起業をする足がかりとしてほしいのかわからない。その微妙な違いについて、コワーキングという言葉でまとめても良いのかどうかを教えていただきたい。</p>
事務局	<p>川西市内にコワーキングスペースがないため、市内で事業をされている方が数名集まり、イベントとして取り組んでおられます。これが「人を集めてわざわざ・・・」という意見になっています。</p>
部会員	<p>回答している方は、コワーキングスペースとシェアオフィスの差を意識していないと思われます。そもそもコワーキングスペースという定義が定まっていない。私の理解では、どちらも1つの空間をシェアし、複数の人間や組織で使うことは同じですが、シェアオフィスはハコとして区切りをして、効率化やコストダウンを前提にしており、コワーキングスペースは個室もありますがオープンスペースもあり、ともに働くこと、人と人との繋がりが起こるデザインという考えが念頭にあります。参考資料1の文面を見ると、これはコワーキングスペースを意識して書いているのではないのでしょうか。</p>
部会員	<p>おそらく登記の問題があります。その場所で登記をして事業を開始できる場所を求めているのか、一緒に仕事ができればよいのか。市の支援は起業家向けなのか、人の繋がりにから事業を拡大したい方を支援するのか。支援の方向性が異なるのではないかと思います。質問させていただきました。</p>
部会員	<p>起業支援を目指すのであれば、登記ができたほうが良いと思います。コワーキングスペースでも登記サービスをオプションで付けることができるところもあり、ニーズに合わせてどこまでのサポートをするのかを検討したほうが良いと思います。</p> <p><大阪のコワーキングスペースの事例について紹介></p> <p>大阪にある4～5階建てのビルのコワーキングスペースの事例では、1階はラウンジ型のコワーキングスペース、2階は全体がオープンスペースで1席単位で借りる</p>

部会員	<p>シェアオフィス、3階は2～3人程度の部屋、その上は20人程度の部屋、一番上は会議スペースという構造になっています。ここが面白いのは、徐々に大きくなる事業規模に合わせてサポートする仕組みで、上の部屋が空くのを待っている人もいます。シェアオフィスのほうが流動性は少なく、経営が安定するため合理的です。全体構造としてどこに焦点を定めるかも考えなければならないと思います。</p>
部会長	<p>コワーキングスペースについて、コロナ禍以前なら起業者の最初のシェアオフィスを兼ねたイメージで、池田市でも同様のサービスがあります。しかし、コロナ禍においてはフリーランスの人のためのコワーキング、またはオフィスに行かないサラリーマンが自宅以外の働ける場所を求めるといったニーズが生まれています。便利な川西能勢口にそれがあるべきで、市民が大阪まで行かなくても良くなります。ただ、サラリーマンとしては、黒川公民館などのんびりしたところでのワーケーションのようなニーズもある可能性があり、和歌山ではそのような取り組みがあると聞いています。創業支援と空き店舗の情報をまとめて発信する取り組みや、コワーキングスペース内に創業についてリモート相談ができる場があっても良いと思います。</p> <p>場所は街中でも里山でも良く、対象者も創業者、フリーランス、サラリーマンなど様々なものがあると思います。</p>
部会員	<p>コワーキングスペースを核として、たくさんご意見を頂戴していますが、他はいかがでしょうか。</p> <p>金融機関として、最近の川西市のコロナ禍の状況をご覧になられて、起業的な盛り上がりや動きがあるのかどうか、教えていただけないでしょうか。</p>
部会長	<p>新しく起業を目指す方は月1件相談があるかどうかで、川西市より大阪市内で起業したい方が多いと思います。コロナ禍のことで事業者から相談を受けることは多く、これまでは飲食やサービス業からが多かったのですが、今はそれが落ち着き、相談件数も先月より減っています。ただ、3年後から返済が始まるため、3年後の企業イメージを考えた対応が必要で、金融機関としては返済が始まるまでにどのような支援ができるのかを考えながらやっている状況です。</p>
事務局	<p>現状について教えていただきました。</p> <p>L欄からサ欄について、市に質問があります。現状では休廃業が増加し、就職も減っている。先行きのこと考えると非常に不安で、就職問題等も記載されているのですが、対応策としてコワーキングスペースを核とした支援では結びつかないため、サ欄を盛り込んでいくことが、短期的・早期的な支援を考えると重要ではないでしょうか。</p>
事務局	<p>課題に対する解決策は手薄な状況です。実際に国と一緒にしごと・サポートセンターを設置し、離職者からの相談やキャリアカウンセリングをしています。予約でいっ</p>

<p>部会長</p>	<p>ばいです。市として新規就職や再就職の支援をどこまでできるかわかりませんが、国と連携して取り組むものと考えており、もう少し対応策を考えたいと思います。</p> <p>「いいな里山ねっと」のような既存の仕組みを活かして強化することは大切であり、新規の取り組みにこだわると難しいため、しごと・サポートセンターなども活かして、新規と既存を上手く活かす形で最終提言をまとめたいと思います。</p> <p>たくさんご意見をいただきましたので、少し整理させていただきます。</p> <p>短期的に見るか中長期的に見るかは重要で、市はコワーキングスペースを早期的な支援の目玉として打ち出していますが、専門家からは長い目で見て取り組むべきという意見がありました。中長期的な目線での位置づけが重要です。</p> <p>コロナ禍の状況が刻々と変わっていく中で、腰を据えた政策が重要になります。</p> <p>駅前立地だけでなく、黒川のような風光明媚な郊外エリアの立地をどう活かすか、人の働き方にも目を向けた対策は、市としても目玉になると思います。</p> <p>コワーキングスペースをどう位置づけるのかについては、従来のSOHO的なもの、多様な市民や働く人が集まる交流の場所、コロナ禍における仕事の足場になる施設など、その位置づけで施策の展開も変わってきます。</p> <p>整備された支援情報については、情報提供を上手く組み合わせることで、アの欄についても新たな政策提案ができるでしょう。</p> <p>ただ、現実的には大阪市内に人の目は向いているため、現実との対比の中で、駅前立地なのか、自然環境とマッチさせた取り組みにすべきなのかが浮かび上がってきたのではないのでしょうか。</p> <p>いずれにしても、市がどのように位置づけ、どのように財政的な裏付けを持って、現実的な提案をするかが大切になります。他にご意見があればお願いします。</p>
<p>部会員</p>	<p>コワーキングスペースは民間サービスと連携して欲しいです。当社は複合レジャー施設の事業を行っていますが、仕事をする途中でお風呂に入りたい、ゴルフをしたいというニーズがあった時に、近場にあれば夜に仕事ができます。自習室も近くに塾があるから成り立っており、民間サービスと連携しやすい環境が必要だと思っています。</p>
<p>部会長</p>	<p>行政か民間かは最後に調整が必要だと思っています。</p>
<p>部会員</p>	<p>コワーキングスペースは行政が行う事業ではないでしょう。やるのは民間ですが、コワーキングスペースでは儲からないため、駅前で借りても採算が合わないと思います。そこで、保育園の設置のように、行政がコワーキングスペースの事業者に補助する仕組みがあると良いのではないのでしょうか。補助金ビジネスにならないようにしつつ、川西モデルを作り空きスペースがあればコワーキングスペース事業ができるような軽いものから、民間が施設や行政の空きスペースを借りるなどの方法もあります。</p>

事務局	<p>川西能勢口に整備するのは、現状ではコスト的にも厳しいでしょう。</p> <p>基本的には、市が運営主体となって設置する選択肢はないと考えています。事業者が設置する場合、継続して根付かなければいけないため、市が何年間か家賃支援をしたとしても、その間に自立し固定客をつかんでいる必要があります。シェア形態のオフィスが川西能勢口にあっても、ソフトのサービスがないと根付かないのではないかと心配していますが、ソフトが充実した事業者を募集しても応募があるのかわからない中で、実施方法については検討しているところです。</p>
部会長	<p>つくるなら利用価値のあるものを整備する必要があるので、ご検討いただければと思います。</p>
部会員	<p>一事業者の立場としては、コワーキングスペースやシェアオフィスを心待ちにしています。北部の人は車で移動するため、駅前にあるなら駐車場があると良く、キセラ川西プラザのようなイメージです。場所としてどこを検討されているのか気になりますが、事業者や市が空きスペースを提供するパターンや、事業者が助成金を使って建てられる場所が数ヵ所あれば、今週は温泉に入りながら仕事をして、次は駅前で仕事をすることもできます。様々なニーズがあるため、1箇所に集約してしまうと時代に柔軟に対応できないため、小さく分散させる方法もあるのではないかと思います。</p>
部会長	<p>分散型など様々なやり方が考えられますが、市としてもイメージを構築するためには現場を知らないといけません。川西市として重要な施策になるため、リアルな現場を見てイメージを構築していくことが大切です。</p>
部会員	<p><地域商社の事例について紹介></p> <p>地域商社という考え方があります。現在は行政としての支援策が書かれていますが、分散しているのではないかと懸念しています。川西市がコワーキングスペースを核とした事業を支援しても、補助期間が終わると離れてしまうかもしれず、コロナ禍が終わればリモートワークがなくなり、現場に行くようになるかもしれません。市の想いを形にしてくれる事業者が必要ではないかと思います。</p> <p>地域商社が必ずしもそうではないですが、島根県の場合は、市民バスの運行を受託運営しながら、市の要望も聞き、地域の活性化に取り組んでいます。コワーキングスペースを核とした時に、仕事をつなぐこと、起こすことも大切ですが、ファシリテーターの役割を果たす人も必要です。そうすると、ウに記載されている交通アクセスについては、コワーキングスペースにいる人を核にしてグリーンスローモビリティのような人の新たな流れをつくる支援ができるはずで、市の想いを達成するスピードが変わると思います。市が何をしたいのか、そして誰が運営するのかを上手く組み合わせることが重要です。地域商社は農産物の話が多いですが、川西市の場合は働く場を武</p>

部会長	器として支援していくことが大切で、集約した支援策の受け手を探すことが課題だと感じます。
事務局	<p>川西市が産業ビジョンをつくったときから、人と人との交流をつくって経済発展に結びつけることが柱でしたので、コロナ禍においても十分活かせる話です。</p> <p>市として、まだ意見が聞きたいカテゴリーはありますか。</p>
部会員	<p>オの欄については、商業者団体の集客事業支援としています。これまでは商店街に補助金を出して夏祭りのような集客イベントをしてきましたが、感染状況によっては開催できないこともあります。現在、商工会では「食ベスタ」というイベントを実施しており、市内に散らばっている店が連携し、スタンプを集めると得点が付くものです。こういった分散型で売上につながるイベントへの取り組みについて、コメントをいただきたい。</p>
部会長	<p>コロナでイベントができないため、何ができるかを考えました。商工会や民間で取り組んでいることがいくつかあります。</p> <p><かわにし食ベスタ等の事例について紹介></p> <p>商工会では「かわにし食ベスタ」というイベントを実施しています。1つはスタンプラリーで、川西市内の飲食店をまわり、3つ集めると商品がもらえるというものです。川西まつりがなくなり、集客イベントもできないため、お店に来てもらう仕組みとしてスタンプラリーを考えました。ただのスタンプラリーでは意味がないため、20店舗を取材に行き動画を作成しました。マイクロツーリズムではないですが、コンセプトとしては地元の人に近くのお店の動画を見てもらい、興味を持って来てもらうためのものです。景品も川西らしい商品として、能勢電鉄の一日駅長券や、バーチャル&リアルゴルフ体験券などをお渡しし、これも地域内にお金が落ちる仕組みのひとつです。</p> <p>商工会では他にも、様々なスイーツを考えて「里山スイーツ」として市内を回遊していただく取り組みも行っています。</p> <p>民間では、毎年「かわにしどらごんバル」を開催してきましたが、今年は開催できないため、期間限定で安く飲食店を利用していただく取り組みをしています。</p> <p>現状ではこの3つが動いていますが、事業者単独では難しいため、商工会や能勢電鉄、民間事業者のグループで取り組んでいます。意見やアイデアを拾いあげて、行政としてお金や場所、規制緩和などで支援してもらえると良いと思います。</p>
事務局	<p>経済団体や民間が取り組んでいる事業に対して、行政がどう関わっていけるかが大切です。</p>
事務局	<p>今年度のはじめにはテイクアウトクーポン事業を実施したところ売れ行きは好調で</p>

部会員	<p>あり、今後もテイクアウト需要は伸びてくると思います。これにまだ踏み込めていない事業者もいるのではと考えておりますが、こういった支援は今後も有効なのかどうかご意見をいただけたらと思います。</p>
部会長	<p>テイクアウトは正直なところわからないです。取りに来てもらえるのは良いが、配達に厳しいため、事業者が踏み出しにくい。ウーバーは川西まで展開しておらず、出前館は手数料もかかります。配送業務の共同事業などを民間にするべきだと思いますが、他市では地元のタクシー業者がやっている事例もあります。デリバリーの需要がどれだけあるのかわからず、今後も商売としてメインにはならないと思います。</p>
部会長	<p>農業についての意見もお願いします。</p>
部会員	<p>川西市内の農産物直売所は3つか4つだと思います。コロナ禍でどう売上が変化したのか調べたいと思っており、1～2つは民間が、残りはJAが運営していると思いますが、独自の特徴をつくって農産物を販売する動きがあり、認知度を高めることで、そこに行けば日常野菜があるということを知ってもらえると良いと思います。テイクアウト需要がないかもしれないということは、市民は家で料理をしており、野菜の需要が高いのかもしれませんが、それなら川西市で農業をすれば定期的に購入してくれる人がいる可能性があり、その繋ぎ方を再度見直すことが大切です。今はその流れが直売所しかなく、これを配達してくれる事業者がいれば、野菜を買いに行くだけでなく、届けてもらうことでブランド化に繋がる可能性もあり、販路が確実にあれば農業を始める人も出てくるかもしれません。消費者と農産物のつなぎ方を改めて考え直したいと思っています。</p>
部会長	<p>川西市内で需要が供給と結びつくことで、就農者の増加に繋がる可能性もあります。産業ビジョンでは打ち出しにくいところだったので、その観点も入れてもらいたいと思います。</p>
部会員	<p>当社は農園も運営しています。農園は一般の家庭農園ですが、区画整理をして貸し出しており、コロナ禍が拡大以降、借りたいという声が増えました。作物をつくりたいというよりは、健康習慣に変えたいようです。スポーツクラブやウォーキングはフィードバックがありませんが、畑を耕し作物が成長し、実際に食べることができるとなると充足感を得られるため、農園ビジネスが盛んになっています。北部の活性化にも農園ビジネスは良いと思います。</p>
部会長	<p>産業ビジョンでは農業の新しい要素を提示しにくかったのですが、今のご意見は現状の流れを反映したものですので、その情報を活かしていけるのではないかと思います。</p>
部会員	<p>その他いかがでしょうか。</p>

<p>部会長</p> <p>部会員</p>	<p>きの欄について、「かわにし食ベスタ」実施の際に20店舗へ取材に行き、お店の売りや特徴を聞き、どのようにPRできるか考えましたが、よく話を聞くと、店主や料理、趣味や客層など、それぞれに個性がありました。既存のものを発掘することも大切ですが、個店では発信が難しく連携できる取り組みができればいいと思います。</p> <p>市内観光資源のブランド化については、もう少し外に打ち出せるようなものがないかと思っています。外に向けてこういう町であり、どのターゲットに発信するという方向性があるこそそのブランド化だと思います。どう見られたいのかを意識した発信が必要です。観光のまちではありませんが、2025年の万博もあり、インバウンドでも、地元の人でもいいので、そのあたりを明確にできると良いと思っています。</p> <p>産業ビジョンの原点でもあり、ポストコロナを見据えて、事務局で改めて整理をお願いします。</p>
<p>部会長</p> <p>部会員</p>	<p>市民農園について、政策として取り組んでいるところを紹介します。</p> <p><練馬区立区民農園、直売所の事例について紹介></p> <p>練馬区は、CSA（Community Supported Agriculture：地域支援型農業）という消費者が生産地を支えるやり方で、都市近郊の練馬方式として広まっており、東京23区内の農地の4割を持っています。住宅と農地が混在していますが、販売農家が443戸、専業農家も87戸あります。1973年から区主導で区民農園をつくり、農業体験農園を運営しています。区内農家と区が連携し、区が受入、調整を行い、利用者は利用料を払って収穫体験をし、現場で指導もしてくれます。この区民農園の中心に直売所があり、区内に103箇所もあります。農園マップには個々の直売所で買える農産物一覧表も掲載されています。他にも練馬大根の日といった農産物関連のシンボルを紹介することで都市近郊農地のイメージを作るなど、区主導で取り組んでいる面白い地域だと思います。地産地消の提携は下火になっていますが、新たにCSAという観点で生産者を支える消費者を増やすという動きが盛り返しています。市主導で取り組む場合には、市民農園を貸すだけで終わらず、その展開を政策的に明確に位置づけることが重要です。</p> <p>実際の事例を知ることが大切であり、良い面や苦労面、様々な工夫もされているでしょう。市で主導する際には、貴重な事例になると思います。</p> <p>それでは、他にいかがでしょうか。</p> <p><チャレンジショップによる移住促進の事例について紹介></p> <p>人口減少地域で、約20店舗が開店し数十人単位の移住促進を進めている事例です。元住民が戻ってきてコンビニを引継ぎ、近くの空き倉庫をチャレンジショップにしています。チャレンジショップで小さなお店を試せる仕組みがあり、そこでやってみようと思った人を近くの空き家にマッチングしています。民間人がファシリテーターと</p>

<p>部会長</p>	<p>して取り組んで支援している事例です。コワーキングスペースの話がありましたが、単にコワーキングスペースという場所をつくっただけでは、何かしようという人しかこない。このチャレンジショップは何かしようという人以外の人も来て、アウトプットを見て、ファシリテーターが「あなたもできますよ」と巻き込む流れができていくところが秀逸だと感じています。巻き込む要素が何かあると良いですが、これをコワーキングスペースでやるだけでは盛り上がりません。提案を受ける際は、どういうアウトプットを生み出す場所にしたいのか、その情報発信によってさらに人を引き付けるサイクルが生まれるのかといったことも、仕様やデザインに盛り込んでもらい、市と連携してビジョンの方向へ持っていくことが重要です。コワーキングスペースを管理の話だけに留めてはいけないと思い、紹介させていただきました。</p> <p>コワーキングスペースを重視して重点的に検討していますが、あまりこだわり過ぎてもいけないという意見をいただきました。</p> <p>本当にたくさんの忌憚のないご意見を頂戴しました。次回は事務局から素案が提示され、また委員の皆様方からいろいろなご意見を頂戴するような会議になろうかと思えます。</p> <p>市の施策としては、早期に取り組むこと含めて求めていますので、資料1の中にどれくらいあるのか、ご意見をお聞きして当初の想定からの見直しや整理も必要です。また、コロナ対策としてどの自治体でも取り組んでいるものもあれば、川西市の特徴を打ち出せるものもあると思いますので、その整理もお願いします。</p> <p>議事録については、事務局で作成していただいたものを私が確認し、承認させていただくということによろしいでしょうか。</p> <p>それでは事務局にお返しいたしますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>3 閉会</p> <hr/> <p>部会長、会議の進行をありがとうございました。委員の皆さんもありがとうございました。</p> <p>次回のビジョン策定部会の開催は12月24日（木）の15時から、本日と同様にオンライン形式で開催したいと思います。改めてメールでURL等をお知らせいたしますので、よろしく願いいたします。</p> <p>本日は長時間にわたりご議論いただきまして、誠にありがとうございました。ズームミーティングからのご退出をもって、本会議を散会いたします。ありがとうございました。</p>